



令和7年 9月 1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 9月のねらい」
ほうおんかんしゃ
報恩感謝

「対話をするこゝろ」

今年は戦後80年を迎え、8月の新聞紙上もテレビの特集も戦後80年を考える特集が組まれていました。未だ世界の中では紛争が絶えず、その記事や画面を見るたびに、目の前の子どもたちが大人になったときにはどんな時代が来ているのだろうか？と心配な気持ちを覚えずにはいられません。

8月6日の広島市の平和記念式典では広島市長が戦争のない平和な社会になるためには「対話すること」が大切であることをお話されていました。子どもたちが大人になったとき、社会の中で自分らしく自己を発揮し、他者と互いの違いを認め合い、困難な時には仲間とともに「対話」しながら乗り越えることのできる社会であるためには、幼児教育がカギになるのだと思います。

園生活は子ども同士の対話であふれています。1歳児の一人の子が揺れている葉っぱを見て指差しをすると、近くにいたもう一人の子がそちらをじっと見つめます。そこに言葉はありませんが、立派な対話が成立しています。子どもたちは心を寄せて聞いてくれる人がいることをわかっているから発信するのでしょう。

たくさん対話を積み重ね、5歳の子どもたちは7月に「よるのこどもえん」を経験しました。「夜までこども園にいられるんだって！何したい？」と話し合いは毎日のように続けました。話し合いの中で「お化け屋敷迷路宝探しパーティしよう！」「お祭りしよう！」「探検宝探ししよう！」と決まっていきました。その過程には自分の思いが通らなくて悔しそうにする姿や、言い出せなかった自分の思いをキャッチしてくれる友だちの存在にほっとする姿など、様々な姿が見られました。いろいろな感情を経験しながらも、みんなで決めたことをやり遂げようと、当日の子どもたちの表情や動きはとても快活で生き生きとしており、本当にまぶしいほどでした。

コミュニケーション能力というのは、自分の気持ちを押し殺して他者に合わせるのではなく、自分の思いと相手の思いを上手に調整する力のことです。けんかやトラブルなど思い通りにいかない場面は、心が大きく育つチャンスです。思いと思いがぶつかり合いながらも、相手の思いに触れ、力ではなく言葉で平和な社会を作っていくことのできる人に育ててほしいと願っています。

9月の保育のねらいは「報恩感謝」です。私たち人間は、衣食住のすべてに自然の恵みがなければ、一日たりとも生活することはできません。周りのヒトやモノに「ありがとう」という気持ちを育むことが、これからの社会を担う幼い子どもたちに関わる大人の使命なのだと思います。

村上真理子

